

# 東ゴビ砂漠における深穴方式による乾燥寒冷地緑化推進技術協力事業 (2021年～2024年)



## モンゴル・東ゴビ砂漠で持続可能な緑化を！

■ **実施団体**：特定非営利活動法人 新潟県対外科学技術交流協会  
(提案自治体：新潟県)

■ **対象国・地域**：モンゴル国  
ドルノゴビ県サインシャンド

■ **現地カウンターパート**：  
ドルノゴビ県環境局  
(前ドルノゴビ県自然環境  
観光局)



■ **協力内容**：

砂漠地域に自生する樹木から種子を採取して「長根苗」を生産。その苗を用いた「**深穴式**」植栽技術の現地移転。市民や学校向け緑化促進ワークショップ開催による**住民の緑化意識の向上支援**。

■ **団体のこれまでの取り組み**：

1993年より、北東アジア諸国との技術協力や交流活動を行ってきた。2013年～2016年まで本プロジェクトの前身である「サインシャンド工業団体緑化と自生種の苗木生産による地域振興協力事業」を実施。

■ **事業実施の背景**：

モンゴル国では近年の異常気象や過放牧による砂漠化の拡大が強く懸念されている。放牧が中心となる草原地帯では草本類の生育が劣化するなど、環境の改善が喫緊の課題である。これに対し、国家事業として植栽を推進しているが、ゴビ砂漠地域では植栽後の灌水が継続できず、枯死する率が非常に高くなっている。

## モンゴル国の課題とこれまでの成果

**課題①** ゴビ砂漠地域における従来の植栽方法では灌水の継続が必要。灌水が行き届かない場所では、植栽された苗木がほぼ枯死している。

**成果①** 長根苗を生産し「深穴方式」にて植栽、**植栽後2年間無灌水で100%の生存率**を確認。  
⇒「深穴方式」植栽技術をサインシャンドの緑化推進グループに移転するとともに、「緑化技術マニュアル(案)」を作成し、地域と共有。

**課題②** サンシャンド住民の緑化意識と習慣化

**成果②** サインシャンド第1学校で、砂漠植物のクラフトづくりワークショップの実施、及び「学校の森づくり」の取り組みにより環境教育を推進。  
⇒**延べ220名以上の子どもたちが活動に参加。教員および生徒たちの緑化意識が大幅に向上**。この活動は、ドルノゴビ県のすべての学校への展開を予定。

## 事業の波及効果

！ **モンゴル喫緊の砂漠化拡大の課題に対応しモンゴル国大統領による「10億本植栽運動」に貢献する事業。サインシャンド発の持続可能な緑化技術が東ゴビ砂漠全域へ波及。**

・ 県内外の緑化関係者から「**深穴式植栽はモンゴルの緑化にとってイノベーション**」と注目。試験サイト見学や技術関連の問い合わせが増加。

・ 「市民向け研修」に県内外から60名以上の緑化担当者や教育関係者が参加。

